香川の 医療 最前線 252

医療法人社団仁和会 辻クリニック院長 辻和宏氏

レーザーで血管治療

痛み解消、体に優しく

下肢静脈瘤

脚の血管がぼこぼこと膨らみ、皮膚表面に浮き出る「下肢静脈瘤」。むくみやだるさを伴い、重症化すると皮膚炎などを引き起こすこともある。手術が必要な場合、従来は静脈を抜き取る治療が主流だったが、2011年に体への負担が少ない「血管内レーザー焼灼術」に健康保険が適用された。14年には高性能に改良された機器が新たに保険適用され、ますます注目を浴びるレーザー治療。県内でいち早く導入したという医療法人社団仁和会辻クリニック院長の辻和宏氏に特徴などを聞いた。

―どのような治療か。

下肢静脈瘤は、静脈にある血液の逆流を防ぐ弁が壊れると発症する。レーザー治療は、傷んだ静脈の中に光ファイバーを挿入し、レーザーの熱で静脈を閉塞させる。血管の内側から静脈をふさぎ、血液を逆流させないようにする血管内治療だ。静脈麻酔と局所麻酔を併用し、臨床検査技師と協力して閉塞する位置を決めることで安全に行う。

―メリットは。

―技術的な進歩は。

11年に保険が適用されたのは波長980ナノメートルのレーザー機器。14年は、波長1470ナノメートルの高性能機器が新たに保険適用となった。この最新機と2カ所から全周方向にレーザーを照射する「ラディアル2リングファイバー」とを組み合わせると、術後の弾性包帯などによる圧迫療法の必要がなくなり、歩行時などの圧迫感から解放される。そして何よりも、以前多少見られた術後の痛みや皮下出血がほぼ解消されたことで、よりメスを入れないため、体に優しい。従来の静脈を抜き取る「ストリッピング手術」は、脚の付け根と膝の2カ所を皮膚切開しなければならなかった。レーザー治療は膝の内側に細い針を刺すだけなので、苦痛を伴わず、傷跡もほとんど残らない。神経損傷などの合併症発症の可能性も非常に少ないといわれている。

―技術的な進歩は。

11年に保険が適用されたのは波長980ナノメートルのレーザー機器。14年は、波長1470ナノメートルの高性能機器が新たに保険適用となった。この最新機と2カ所から全周方向にレーザーを照射する「ラディアル2リングファイバー」とを組み合わせると、術後の弾性包帯などによる圧迫療法の必要がなくなり、歩行時などの圧迫感から解放される。そして何よりも、以前多少見られた術後の痛みや皮下出血がほぼ解消されたことで、より体に優しい治療となった。

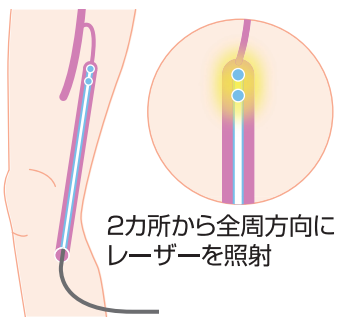
また、14年は高周波で熱を発生させる「ラジオ波焼灼術」も保険適用となり、レーザー治療と共に注目されている。

―患者の反応は。

レーザー焼灼時間は約5分で、治療全体だと20分程度。日帰りが可能で、早期の職場復帰が見込めるので大変好評。傷跡が残らないという美容的な点も満足そうだ。初診料や術後の検査など全てに保険が適用されるため、費用的な面も安心につながっていると思う。

―患者数は、軽度のものを含めると人口の8％に上るともいわれている。

命に関わるような病気ではないが、自己判断による過小評価はいけない。皮膚炎や色素沈着などの合併症を引き起こす前に受診してほしい。ホルモン剤を服用しているなどの一部患者にはレーザーが適さない場合があり、症状によって治療法は異なる。適切な処置を施すためにも、県内はまだ少ないが、日本静脈学会など6学会で構成する委員会の認定を受けた当院のような施設で受診することが望ましいと考える。



下肢静脈瘤の最新血管内レーザー治療

◆つじ・かずひろ　1986年愛媛大医学部卒。岡山大付属病院、香川県立中央病院、屋島総合病院などを経て2007年より現職。医学博士、日本外科学会専門医、日本脈管学会専門医、血管内レーザー焼灼術実施基準に基づく実施医、指導医。三豊市出身。54歳。

■ 医療法人社団仁和会 辻クリニック

下肢静脈瘤の治療は年間600件程度。2007年に血管内レーザー焼灼術を始め、1710件の実績。臨床検査技師２人在籍。

所在地：高松市林町1501－１

電話：087(867)2662

http://www.cvs-tsuji.jp/